

1. 科目名 (単位 数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3414									
2. 授業担当教員	関 容子		SCOT3414									
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期									
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する5領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。特に、幼児期において育みたい「資質・能力の三つの柱」の視点を念頭に、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う											
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。</li> <li>・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。</li> <li>・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。</li> </ul>											
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習に示された学習課題に取り組んで、授業に出席する。</li> <li>2. 課題 (事後学習) をまとめる。</li> </ol>											
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 『基礎からまなべる 保育内容 (環境) ワークブック』田中卓也・岡野聡子・藤井伊津子他 編著 あいり出版、2021 年</p> <p>【参考資料】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) その他、適宜資料配布</p>											
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得することができた。</li> <li>2) 子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できた。</li> <li>3) 子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定する方法を理解することができた。</li> </ol> <p>○評定の方法 上記の学習目標に基づいた規準を以下の方法で総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 出席, 参加, 発表等から授業に取り組む姿勢</td> <td>「授業態度」</td> <td>(20%)</td> </tr> <tr> <td>2. 各授業内の課題, 中間レポート等</td> <td>「小レポート」</td> <td>(20%)</td> </tr> <tr> <td>3. 学習内容を総括する課題</td> <td>「期末レポート」</td> <td>(60%)</td> </tr> </table>			1. 出席, 参加, 発表等から授業に取り組む姿勢	「授業態度」	(20%)	2. 各授業内の課題, 中間レポート等	「小レポート」	(20%)	3. 学習内容を総括する課題	「期末レポート」	(60%)
1. 出席, 参加, 発表等から授業に取り組む姿勢	「授業態度」	(20%)										
2. 各授業内の課題, 中間レポート等	「小レポート」	(20%)										
3. 学習内容を総括する課題	「期末レポート」	(60%)										
12. 受講生への メッセージ	<p>子どもたちの前に立つとき、現在の「育てられる」立場から「育てる」立場に身を置くことになる。保育者自身が子どもたちにとって影響力の大きい人的環境であることを自覚し、その時々の子どもの思いを感じ、共感できる良き理解者でありたい。保育者は日頃より、日常生活におけるさまざまなことさらに興味、関心を抱き、子どもたちのよりよい生活をつくるため、自分に何ができるかを考えることが求められる。意欲的にグループ学習に取り組み、豊かな発想を身に付け保育実践に生かしてほしい。なお、グループ活動等により、講義内容の進度を調整することがある。</p> <p>1. 授業に出席する 2. 豊かな発想をもって意欲的に参加する 3. 机上に授業に関連のないものは置かない</p>											
13. オフィスアワー	別途通知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	オリエンテーション (授業概要の説明と進め方) 「環境を通して行う保育」の意味①	事前学習	教科書の第 1 章及び幼稚園教育要領の保育内容「環境」を読み理解する。									
		事後学習	子どもの発達にふさわしい環境について自分の考えをまとめる。									
第 2 回	環境を通して行う保育の意味② 領域の意味、子どもの育ちと領域「環境」 非認知能力を育む環境について	事前学習	教科書第 2 章、3 章 4 章及び幼稚園教育要領第 1 章、第 2 章を読み主体的な学びについて考える。									
		事後学習	子どもが自ら環境に関わり、自発的に活動したくなるためには、何が必要かを考える。									
第 3 回	子どもを取り巻く人的環境	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書第 5 章、6 章、7 章を読み、人的環境について自分の考えをまとめる。									
		事後学習	子どもにとってふさわしい経験が積み重ねられるために、保育者に求められる視点について考える。									

第4回	子どもを取り囲む物的環境 室内環境、室外環境の構成について	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書第3章、7章、11章、12章を読み、自分の考えをまとめる。
		事後学習	数量や文字などの学びにつながる経験や教材など、具体的な保育場面をあげ、考えてみる。
第5回	子どもを取り囲む自然環境 人と自然の関わりについて考える 情報機器及び教材を活用する	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書第2章、9章を読み、子どもはどんな発見を楽しむのか、それはどんな学びにつながるのかを理解する。
		事後学習	保育現場における自然環境、情報機器の取り扱いについて、自分なりの考えをまとめる。
第6回	グループ演習(1) ～身近な植物への関わりと食育活動について考える～	事前学習	教科書第8章を読み、子どもの発達に応じた興味、関心について学ぶ。また、身近な植物を収集し、植物を使った遊びや食育活動とのつながりについても考えて来る。
		事後学習	子どもたちの活動を見通し、どのような展開が予想されるか、さらに深い学びにつながる環境構成について考えてくる。
第7回	グループ演習(2) ～身近な生き物(昆虫やさかな、飼育動物など)への関わりを考える～ 子どもと生き物の関係を考える	事前学習	教科書第9章を読み、身近な生き物とおした経験や活動について考えてくる。
		事後学習	子どもたちの活動場面から、さらにどのような展開が予想されるか、生き物の命とその責任についても考える。
第8回	グループ演習(3) ～身近な動物への関わりを考える～ 動物飼育について理解を深める	事前学習	教科書第9章を読み、子どもと身近な動物に対する関わりについて、考えてくる。
		事後学習	生き物に対する、子どもたちの発達に応じた理解と、触れ合う経験から学ぶことがらについて考える。
第9回	グループ学習(4) ～行事や園外保育を考える～ 伝統行事や地域社会とのつながり、児童文化財や、さまざまな生き物との出会いなど、情報機器及び教材の活用を検討する	事前学習	教科書第2章、10章、13章を読み、身近な地域社会に目を向け、園外保育が子どもたちの興味、関心に沿った活動となるよう、情報機器等の活用も取り入れながら保育展開を考えてみる。
		事後学習	活動後の情報発信には、どのようなことが考えられるかまとめてみる。
第10回	グループ活動(5) 数量や図形、文字や標識に対する感覚を身につける	事前学習	教科書第11章、12章、13章を読み、活動のなかで学ぶ数量、図形、文字、標識などについて考えてみる。
		事後学習	さらに深い学びとなるための環境構成や働きかけについて考えをまとめる。
第11回	グループ活動(6) 保育現場における事例をあげ、その保育展開と学びについて発表準備をする	事前学習	対象年齢や場面、展開について考えてくる。
		事後学習	子どもの気付きから活動の展開まで、子どもは、どんなことが楽しく、どんなことがあればもっとおもしろくなると思うのか。その経験とおして、何を学んでいるのか、環境構成や配慮事項なども踏まえたプレゼンができるよう、パワーポイントでの発表の準備をする。
第12回	グループ活動(7) 保育現場における事例をあげ、その保育展開と学びについてグループごと発表する	事前学習	パワーポイントを使用し、事例を挙げて発表する。
		事後学習	各グループからの質疑応答を受け、発表内容を見直し、不足部分や改善点について考えてみる。
第13回	指導計画と保育施設における安全管理 環境をおして行うための指導計画と設備や環境、保健的環境や安全の確保、特別な配慮を要する子どもと『環境』及び小学校との連携について考える	事前学習	教科書第13章、14章、15章を読み、子どもが主体的に活動するための指導計画と安全管理、特別な配慮を要する子どもの『環境』についても考えてみる。また、小学校と保育施設との環境の違いについて、具体的な場面や取り組みを考えてくる。
		事後学習	安全管理についての、具体的な取り組みと、場面ごとのチェック項目について考え、それがどのように子どもの助けとなるのかについて、説明できるようにする。
第14回	子どもの活動を見通した、環境構成の視点と留意点、配慮について、保育現場の取り組みから学ぶ(ようこそ先輩!先輩の保育実践事例から)	事前学習	「環境を通して行う保育」の意味を考え、子どもの主体的な学びについて、自分の考えをまとめる。
		事後学習	具体的な場面における『環境』について取り上げ、それがどのように子どもに影響を与えると考えるのか、説明できるようにする。
第15回	子どもたちの主体的な活動を促し、豊かな経験が積み重ねられる『環境』まとめとレポート	事前学習	これまでの学びを振り返り、子どもたちの育ちに必要『環境』について、考えをまとめてくる。
		事後学習	保育内容『環境』と、子どもの育ちとの関係について、自分なりの考えをまとめる。